

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（桑名高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から 強くはばたく 人づくり」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>★桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>★強くはばたく</p> <p>② 生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p>★人づくり</p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 学力・クラブ活動・楽しい学校・進路実現</p> <p>○保護者 社会性・安心安全・学力・クラブ活動・進路実現・社会的自立・楽しめる学校・一人ひとりを大切にする学校</p> <p>○地域社会 地域の誇りとなる、そしてリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献</p>	
(2) 連携する相手	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
と連携するうえでの要望・期待	<p>○大学 知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成</p> <p>○中学校 桑高の特色明確化、中学校への情報提供</p> <p>○教育産業 桑高のニーズは何か？</p> <p>○保護者 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p>○地域社会 地域活動への参加</p> <p>○病院等 地域医療への関心</p>	<p>○大学 高大連携による情報提供</p> <p>○中学校 中高連携による意思疎通</p> <p>○教育産業 桑高のニーズに合った情報提供</p> <p>○保護者 学校と連携した家庭教育</p> <p>○地域社会 地域の教育力の活用</p> <p>○病院等 学校との密接な連携</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>【評価委員から】</p> <p>○総務部からの教職員の多忙化については、本来家庭教育で担うところも担ってもらっているなど先生方の時間外勤務に敬意を表したい。会議の簡素化、不必要な業務の改善や業務や業務の棚卸し等工夫して取り組まれない。</p> <p>○理数科での学びの拡大深化については、小中学校への成果発表などが考えられる。</p> <p>○「理数科発表会」について、レジュメだけの発表ではなく、論文形式での発表やポスター利用により、全校生徒への発表をビデオ作成して中学校等外部へ紹介してはどうか。</p> <p>○中学校との授業見学交流について、評価できるのでお互いの気づきを今後に生かしてほしい。</p> <p>○進路指導について、地元志向が強くなっている。</p> <p>○看護科について、看護科の生徒と普通科の看護系希望の生徒の交流や共存の工夫があるとよいのでは、看護系大学の説明会などの際の普通科と看護科の交流等引き続き行われたい。</p> <p>○定時制について、日本語指導についての工夫を継続されるなど学力向上に取り組まれない。</p>	
	(4) 現状と課題	<p>教育活動</p> <p>これまでも、生徒は日常的な学習、クラブ活動、課外活動において、何事にも一生懸命と取り組んできている。こういった力を基本として、これからより求められる「主体的な学び」を実現するため、総合的な学習の時間、文科省や教育委員会の事業、地域社会の企画や大学、企業等との連携を有効に活かし、各学科の生徒が学習やクラブ活動以外に高校3年間で自分は「このことにとり組んだ」、「こういった事ができるようになった」、「このことでの探求を深めた」といったものを持つ機会をつくっていききたい。</p> <p>学校運営等</p> <p>教職員は、生徒の進路実現に向け、粉骨砕身努力をしてきているが、総勤務時間の縮減に向け、会議やクラブ活動を含め、仕事の進め方について、見直す時期に来ている。多くの意見を聞き取り、実効性のある改革を早急に進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>① 生徒の主体的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、教科指導の充実と授業改善を進めます。</p> <p>② 入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を体系的に推進します。</p> <p>③ 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組めます。</p>
学校運営等	<p>① 教職員の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織力ある学校づくりを推進します。</p> <p>② 学校・家庭・地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、開かれた学校づくりに努めます。</p> <p>③ 総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が創造性を発揮し、情熱とやりがいを持って生徒と向き合い、指導に専念できる環境づくりに取り組めます。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

<p>層別の指導を見直します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に行なわれる進路協議会において、普通科と理数科の生徒の的確な文理選択および志望校選択が行われているかを検証することで、進路意識の高揚を確認します。 ・7月と12月に実施される看護科の実習において、その取組の中から進路意識の高揚を確認します。 <p><2学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが自分の将来の目標に向かって主体的に学習に取り組み、中心学年として誇りを持った学校生活を送れるような態度を育成します。個人面談、学年集会などを通して、校内での様々な活動に携わるよう、自分の目標に向かって絶え間なく努力するよう訴えていきます。(◎) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期の学習状況調査で、平日3時間以上、休日5時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。 <p><3学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終学年として、生徒の卒業後の進路保障を目指し、節目ごとの学年集会、個人面談の実施、学年通信の発行に取り組みます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が、普通科・理数科の卒業生数の4割以上の達成を目指します。 ・授業や校内外の研修を通して自然科学や技術開発への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につかせます。(◎) <p><理数科></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な教科指導や課題研究活動、校内外の研修活動などへの取組を通して、理系キャリア教育の充実を図ります。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や校内外の研修における理数科生徒の満足度の「やや満足」以上が80%になることを目指します。 	<p>7月4・5日 愛知健康の森実習 12月13～15日 保育所実習 40名全員が参加し、事前、事後の活動を含め貴重な経験を積むことができました。</p> <p><2学年></p> <p>活動指標に記した件に関しては、2学年団協力の下、着実に進んでいます。成果指標に関して、1月調査において平均学習時間は前回より増加し、平日3時間以上が16.4%、休日5時間以上が14.4%で目標未達成。一人ひとりの学習時間をあと1時間増やせば目標達成となるので、引き続き面談等で働きかけていくようにします。(◎)</p> <p><3学年></p> <p>学年集会をこまめに行い、要所要所をうまく引き締めることができました。特に個人面談は担任が必要に応じて適宜増やし、進路相談に対応しました。学年通信も発行を増やし進学意識をより高めました。国公立の合格結果は目標を達成できました。</p> <p><理数科></p> <p>4/19 理数科縦割りガイダンス(1、3年)課題研究ガイダンス(2年)7/20～22 理数科合宿(1、2年)(琵琶湖博物館、長浜バイオ大学) 10/17 理数科校外研修(1年)(小杉食品)11/7 理数科校外研修(1年)(名古屋工業大学)11/14 理数科校外研修(2年)(四日市オキシトン) 1/31 課題研究発表会(1、2年)などを通してキャリア教育を推進した。理数科生徒の満足度調査の結果は授業78.3%、校内外研修83.7%でした。(◎)</p>
---	---

<看護科>

・看護師国家試験全員合格を目標とし、思考力や判断力を養います。(◎)

免許取得時に求められる実践能力を養うために、自主的、主体的な学習習慣を確立します。

【活動指標】

・日常から思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、自らの思考の基で判断する機会を各科目から体験します。(※)

・産業教育における事業、臨地実習施設行事、看護協会等の行事等、積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にします。

・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

・学習課題の充実を図り、必ず科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づいた内容であるかを評価します。

・全員、期日までに課題提出ができるようにします。

・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験を基に今後の考察も記入できるようにします。

<総務部>

【活動指標】

・人権便りを年5回以上発行し、生徒の日常に生じる内容を取り上げ、人権推進教育を身近に感じられるように促します。

・人権講演会を実施し、生命・人権を尊重する心、他人を思いやる心、共に生きる豊かな心を育みます。

・人権ロングホームルームを実施し、生徒が主体的に話し、相手を受容することができるよう指導します。(◎)

【成果指標】

・人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが8割を超えることを目指します。

<生徒指導部>

・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣の確立や、自主・自律した社会生活が送れるよう指導するとともに、交通事故防止や社会や時代の変化に伴う様々なリスクに対する知識や正しい判断能力を身に付けさせます。◎

<看護科>

○授業では、演習やグループワーク、リフレクションを取り入れ、自ら学び考え、自己の課題に取り組めるよう指導しました。課題提出においても期限までに95%以上の生徒が提出することができました。

○臨地実習では様々な領域がありますが、現場の指導者と教員が協力し、学習目標達成へ向けて指導を行いました。◎

○外部講師を招いて精神看護、母性看護、老年看護、看護管理・医療安全・災害看護においてキャリア教育を実施しました。◎

<総務部>

人権だよりは5号発行し、目標達成。

人権講演会は1月に清原隆宣氏を招いて実施。1、2学年が参加。

3年人権HRは11月実施。1、2年人権HRは2月に実施予定。学年会、人権推進委員会で指導案を検討。

人権講演会のアンケート結果は「大変わかりやすく、考えさせられる内容であった」という肯定的な評価が大多数でした。人権ロングホームルームの生徒アンケートについても「班での意見交流によって差別について深く考えることができた」「差別のない社会をつくるために何をすべきかを考える機会になった」「お互いの意見交流ができてよかった」という肯定的な意見・感想が多数を占めました。

<生徒指導部>

・寝坊による遅刻者数はごく少数でした。やや不登校傾向の生徒の遅刻が回数としては多く見られました。

・服装面(制服の正しい着用)において、学校全体での取組を行い3年目になって特に女子生徒のスカート丈は格段に良くなっています。

登校時の挨拶運動においても、しっかりと挨拶のできる生徒が大半ですが、さらに全員の挨拶の徹底が今後の課題です。◎

【活動指標】

- ・平常授業時には毎朝10分間校門（北門）にて遅刻指導・服装指導・自転車等の安全指導を行い、基本的生活習慣の確立を身に着けさせます。
- ・主に定期考査期間時に通学路にて登校指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導をおこないます。
- ・校内では挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1週間実施し、品格を備えた桑高生を育みます。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し身だしなみを整える指導を行います。

【成果指標】

- ・身だしなみを整えさせる取組の中でも特に女子生徒のスカート丈においては性的犯罪被害にも繋がる可能性もあることから適正な長さでの着用を定着させることに重点課題に置き、年3回の服装指導時において全女子生徒のスカート丈が適正な状態で着用できていることを目標とします。

<進路指導部>

- ・キャリアデザインに基づいたコース選択や志望校の決定をし、第1志望校の合格を実現します。

【活動指標】

- ・校内大学説明会の充実を図ります。
- ・キャリア教育の視点からの進路指導を行います。(◎)
- ・校内大学説明会の充実や1年の文理選択と2年の科目登録前にキャリア講演会を開くなど、生徒の進路選択をするうえで有効な材料を提供します。
- ・難関大の中でも希望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施します。

【成果指標】

- ・説明会、進路講演会の事後アンケート結果において全項目3点以上（4点満点）
- ・国公立大学現役合格者数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上。(◎)
- ・名古屋大学現役合格者数が15名以上。(◎)
- ・難関国立10大学と医学部の現役合格数が20名以上。
- ・3学年4月の調査における第1志望校に現役で合格した生徒が普通科・理数科卒業生数の2割以上。

「自分から挨拶をする」「挨拶を返す」ことを引き続き意識させていきたいと考えています。

<進路指導部>**【達成状況・評価結果】**

- ①1年生は文理選択を控えた10月に三重大と名市大から5学部の先生を招き、普通科・理数科全員参加の分科会形式でキャリア講演会を実施。
- ②2・3年生は、7月に名大から工学部マテリアル学科、情報学部、経済学部でキャリア講演会を実施し、参加者はそれぞれ69, 33, 25名でした。
- ③6月に三重県立看護大を招いて、1～3年の看護系進学希望者に6月に看護職一般について講演会を開催し12名参加した。①～③のアンケートの結果もほとんどが3点以上の好評価でした。
- ④名大チャレンジサポートは、最初の72名がセンター直前までモチベーションを維持することができました。2月の名大対策講座は19名の参加でした。
- ⑤夏の京大生見学会は1年を中心に38名の参加があり盛況でした。
- ⑥今年度は、昨年度に引き続き名大のMIRAI SGCに5名がチャレンジし、1名が最終ステージに残る快挙を成し遂げました。
- ⑦生徒アンケートの進路に関する項目は8割を超える生徒が肯定的評価でした。
- ⑧現役合格者数は国公立大学が4割以上で目標達成できましたが、名古屋大学現役合格者数は9名でした。

【具体的取組に関する成果や課題】

- ①2, 3年生向け大学説明会は意識が高い生徒が参加しており、上位を目指す層も増えてきています。続けて同じ内容にならないよう学部を変えて実施をしていますが、開催日時や内容について生徒にとってより魅力的なものになるように今後も計画していきたい。②実施4年目の名大チャレンジサポートは上位をめざす層をつくるという点では成功ですが最後まであきら

<定時制 学習指導>

- ・「社会の変化に対応した教育活動に取り組みます。」
- ・キャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の計画を考えることで、生徒間の対話を深め、気づきの取得を促進する。限られた時間の中で多くの体験・経験をさせ自身の肯定感を育て、生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指す。(◎)

【活動指標】

- 1年生：基本的な生活習慣の確立。
- 2年生：進路実現に向けて勤労と学業の両立。
- 3年生：将来の進路実現に向けて自分探し。
- 4年生：コミュニケーション能力の向上と進路実現に向けて自身で行動する力。

- ・1, 2年において国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着と向上を図り、外国籍の生徒についても日本語指導を踏まえ取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒満足度80%を目指します。
- ・基礎学力の定着について、D3からの脱出を目指します。

【活動指標】

- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。

【成果指標】

- ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。

<定時制 生徒指導>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣の確立を目指し、自主・自律した生活が送れるように指導を行います。(◎)

【活動指標】

- ・無断遅刻・無断欠席をなくし、生活指導案件5件以下を目指します。
- ・挨拶運動・誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気づくりを確立します。
- ・校則はもちろん、社会のルールを厳守するよう指導をおこないます。
- ・生活全体を指導できるよう努めます。

【成果指標】

- ・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底的に

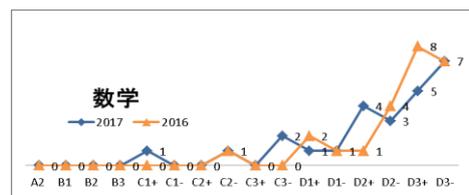
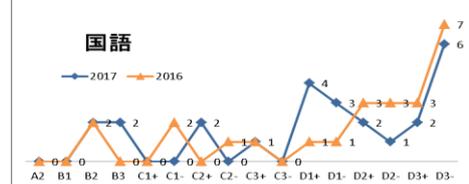
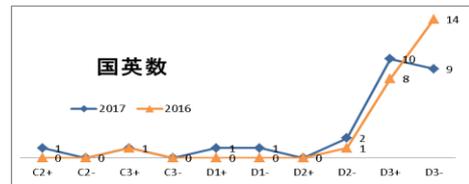
めさせない指導が本当によいのかをここで一度検証してみる必要があります。

③総合的な学習の時間の年間計画について、他の分掌とも協力しながら、キャリア教育の視点から位置づけやつながりを重視して再構築することができました。今後は4月に入学する新テスト学年の対応を進路が中心となって情報収集や体制固めを進めなければなりません。

(◎)

<定時制 学習指導>

学習指導の成果として昨年から実施している基礎学力診断テストの在校生の取組状況については各教科でばらつきはあるものの昨年と同じテストと比較できるように実施しました。昨年の結果と比較すると少数ですが成績も上がり、結果と比較することにより自己肯定感を高める指標となりました。入学生については大学進学を目標とする生徒も在籍し、進学指導の充実を図りたいと考えます。



(◎)



<定時制 生徒指導>

学年が上がるにつれて問題行動も無くなり自律心が確立されてきています。下級生については70%が職を持ち、学校生活の両立も確立しつつあります。遅刻欠席については一部

(◎)

	<p>指導します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABCを確実にできるように指導します。 <p>A当たり前のこと B馬鹿にしないで Cちゃんとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先など各諸事情の報告を徹底指導します。 <p><定時制 進路指導></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身に付させます。 ・進路実現に向けたキャリア教育の実施 ・自分探しによる新規開拓。 ・外国籍生徒の就労支援 ・大学進学への指導。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の有職率80%を目指します。 ・各教科で、ICT 機器の充実について検討していきます。 	<p>の支援を必要とする生徒に多いものの、ほとんどは保護者または本人から連絡があるようになってきています。生徒指導案件については様々な課題もあり、処分だけで済ますことなく警察・児童相談所・保護者と連携を図り最善策の検討に努めました。全般的には授業態度・規律はほぼ確立され、落ち着いた状況で学習に取り組むことができています。また、今年度は他校との生徒交流会に参加、生徒生活体験作文発表大会では司会も務めるなど様々な行事に積極的に参加しました。</p> <p><定時制 進路指導></p> <p>現在の有職率は70%にとどまり、就労に対する意識改革の必要な生徒も在学しています。これまでの勤労勤勉の定時制高校から現状が変わり、多種多様の課題を持った生徒も増加しつつあります。</p> <p>キャリア教育を通じこれらの課題解決に向けて社会人として卒業できるよう就労支援・進路指導を充実させていきたいと思えます。</p> <p>卒業生の就職率については100%を達成。今年度は指名求人もいただき、担任と進路指導部とで新規開拓に努めたことが成果に結びつきました。</p>
--	---	---

改善課題

・大学入試はもちろん、キャリア教育の視点に注力して、名大 MIRAI-GSC や三重大サマーセミナー等外部のイベントへの積極的な参加を促進する。入試改革や主体的な学びの必要性から、理数科の発表会を中学校を含めた多様な関係者に公開していくとともに、2年生に普通科にも課題研究的な探求の取組の必要性がある。(普通科生徒のテーマ設定には、地域との関わりが鍵になる) また、定時制での進路希望実現が課題である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>重点① 組織力ある学校づくり</p> <p>重点② 開かれた学校づくり</p> <p>重点③ 指導に専念できる環境づくり</p>	<p><総務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会を通して分掌間の連携を図ります。 ・同僚と相談しながら仕事を進めていける職場づくりに取り組みます。 ・グループウェアの利用を呼びかけ、朝の打ち合わせや会議時間の短縮に取り組みます。(◎) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の人間関係の項目、「職員間の対話は活発に行われていますか。」「同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。」以上の数値3.0以上を目指します。(※) 	<p><総務部></p> <p>グループウェアの活用は、かなり進んだように感じるが、朝の打ち合わせは依然として慌ただしい現状です。</p> <p>(職員満足度調査結果より)</p> <p>①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。</p> <p>→ 数値2.8(昨年2.8)</p>	<p>◎</p> <p>※</p>

改善課題

・総勤務時間縮減について、定時退校日等は、定時制はクリア、全日制は厳しい状況がある。(7月45% 8月22% 9月16% 10月23% 11月19% 12月13%) 部活動休業日 については、ほぼ達成できているが、今後、部活動ガイドラインを踏まえて取り組んでいく必要がある。AKPとさらに協働して、より実効性があるように組織的に展開していく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>(年度末に記載)</p> <p>【総勤務時間の縮減について】</p> <ul style="list-style-type: none">・勤務時間のことについては、やる気のある先生の気持ちもあり、ある程度しかたがない側面もある。あまり言い過ぎてやる気をなくしても困る。やらされ感で仕事をするのが良くないのでそのあたりのさじ加減が必要。無理して帰ってではなく、帰らないといけない人が帰りにくいというのが良くない。・勤務時間については、娘も部活動でお世話になったが、時間外勤務は、多くが部活動指導だと思うが、土日に部活動で忙しいような人を校務上で配慮するようなしくみはできないか。 <p>【大学進学に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・国公立に加えて、関東方面の指定校推薦の現状について <p>【看護科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・看護科単独の時よりも他学科との中で、視野や幅を広げられるといいと思っている。衛生看護科の卒業生は、とてもいいが大学卒と比べると幅の広さ、視野の広さに課題がある。三重県内でも4大学に看護学科があるが、看護師になってからのキャリア形成の点で、幅の広さを身につけてほしい。今の看護の世界もマニュアルどおりではなく、次になにをするかを主体的に判断しないとイケない。いかに自主的、な学びをしていくかが問われる。 <p>【理数科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・理数科の課題研究発表会について、中学校校長先生に案内してはどうか。 <p>【生徒指導に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒指導について、身だしなみの改善が良い一方で、日常のテストに向かう姿勢が課題。 <p>【部活動との両立に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動について、引退してから伸びる力を感じる。生徒アンケート結果をみても部活動で培ったものが大学入試へも活かされている。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>(年度末に記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・平成30年度入学生対象の「大学入学共通テスト」や次期学習指導要領を見据えた準備等、各教科で、記述式問題への対応や思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業への転換を進めていく。・新たな調査書など多面的・総合的評価への対応のため、1年次からのポートフォリオの記録・活用、2年次の総合的な学習の時間における探求的な活動等を導入していく。・理数科課題研究発表会や授業公開の中学校への案内等、中高の連携を模索していく。
学校運営についての改善策	<p>(年度末に記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・勤務時間縮減に向けて、夏季休業期間中における学校閉校日や毎月の定時退校日の設定、部活動の週1日の休養日の設定、会議のスマートルール化の徹底、仕事の効率化等、AKP委員会と連携しながら実効性のある改善に取り組む。また「三重県部活動ガイドライン」に記載された休養日・活動時間の設定に基づいた部活動運営を推進する。